

審判講習会 参加報告書

平成29年 8月28日

報告者 二宮 光司

この度参加しました、審判講習会について報告します。  
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	平29年度全国中学校体育大会 第47回全国中学校バスケットボール大会
<b>参加者 (報告者)</b>	二宮 光司(報告者) (所属カテゴリー) 中体連
<b>期 日</b>	平成29年 8月 22日(火) から 平成29年 8月25日(金)
<b>会 場</b>	那覇市民体育館・県立武道館・沖縄市体育館
<b>講 師</b>	関口久視氏、玉木彰治氏、田邊真由美氏、福岡敏徳氏、蒲健一氏、御手洗亮氏、星野由貴氏 武藤陽子氏 本部派遣S級審判員8名
<b>参加者</b>	中体連所属A級審判員28名、ブロック推薦B級審判員38名、次開催県審判員4名 開催地審判員27名 計97名
<b>報告① レ 講義 □ 実技講習 □ ゲーム (該当に レ)</b>	レクチャー 講師 関口 久視氏 テーマ『3Person-Officiating』 審判会議に先立って、関口氏より講義が行われた。これから国内の大会でも3Personが導入される機会が多くなるのでメカニクの理解とポイントについて講義いただいた。  【LEAD】 ・ <b>Ball-side = Strong-side</b> (ボールサイドがストロングサイド) ・ <b>CLEARLY below the FT line extended and down</b> (フリースローラインより下のプライマリ) ・ <b>Close down is the key</b> (クローズダウンのタイミング→ボールがトップでクローズダウン) ・ <b>Outside-in/45Angle</b> (アウトサイド・インと45度のアングル) ・ <b>Do not rotate at 5/24sec,or less</b> (ショットクロックが5秒以下ではローテーションしない) ・ <b>Scan the paint while rotating</b> (ローテーション中のスキャン・ザ・ペイント) ・ <b>Block/Charge involving NCSC concerns</b> (ブロック/チャージのレフェリング) ・ <b>Lead NOT run the baseline(Sharp walking)</b> (ローテーションは走らず、シャープに歩く) ・ <b>3Quick = No rotation</b> (3クイックス=ローテーションしない)  【TRAIL】 ・ <b>Above the FT line extended and up</b> (フリースローラインより上のプライマリ) ・ <b>Outside-in</b> (アウトサイド・イン アングル) ・ <b>Big Picture mentality</b> (大きな視野でとらえる→L・Cの判定が多い) ・ <b>Know what Lead is refereeing on</b> (リードが何を見ているかの把握) ・ <b>Referee where Lead cannot</b> (リードが見えない角度の判定) ・ <b>Pick the paint while rotating into Center</b> (センターへの移動中のピック・ザ・ペイント)

T→Cの移動中にボールを視野から離す

- ・Traveling(トラベリングの視野・・・インサイドプレイでの足下への視野)
- ・Lead/Trail communication(リード/トレイルのプライマリ関係)

### 【CENTER】

- ・Strong Center(ストロング・センター)
- ・Start from Basic Center position(ベーシックセンターポジションからのスタート)  
フリースローラインにあるサークルの範囲をイメージ
- ・Trail mentality(High center)(トレイルメンタリティー、ハイセンターの活用)
- ・Curl play/Post play (カールプレイ/ポストプレイの判定)
- ・Center-side quick drive(センターサイドからのクイックドライブの判定)
- ・Run C to C (センターからセンターへしっかり走る)
- ・Lead/Center communication(リード/センターのプライマリ関係)

### 【ローテーション】

- ◆リードはセットアップポジションからミラーの動き  
体の向きはペイントへ向けて45度 クローズダウンをしっかりとしておくことがポイント
- ◆リードはボールがセンターサイドへ移動したらローテーションをスタート  
スキャン・ザ・ペイントをしながらシャープに歩く  
ローテーション中に3クイクスがあればステップバックで戻る  
【3クイクス=①クイックドライブ、②クイックショット、③スキップパス】  
スイッチサイドが完成してから体の向きを変える
- ◆トレイルはリードがローテーションを開始したら、ピック・ザ・ペイントを行いながら  
ニューセンターへ移動する
- ◆センターは自分の前にアクティブな1 on 1がある間はアングルをキープ  
ゴールヘドライブが起きたら、最後までプレイを見届け判定する(クロスステップの活用)  
ボールが展開されたらニュートレイルへ

### 【トランディション】

- ◆ニューリード(T to L)は4秒でセットアップポジションに入る
- ◆センターもアスレティックに走る(Run C to C)  
フリースローラインの延長上、コートの中
- ◆リード、センターともに
  - ・ブレイク時の自分サイドからのフィニッシュを判定する
  - ・ブレイク時のクイクスリーに対応 シグナルを出す。(ピーク)

### 【アウト・オブ。バウンズの訂正と手順】

クルーワークを発揮する。プライマリーレフェリーの判定が完全に違って、自分が「ラストタッチを確実に確認していた」ことが条件。→「違うかな?」では訂正に行かない

- ◆手順1：プライマリーレフェリーの判定が違っていたら、コミュニケーションをとって正しい情報を伝え、プライマリーレフェリーが訂正のディレクションを示す。

	<p>◆手順2：プライマリーレフェリーが判定できず、ヘルプのサインを出している場合はセカンダリがディレクションを示す。</p> <p>以上のことの説明していただいた。</p> <p>さらに関口氏より</p> <p>「これまでは NBA と FIBA で色々違う点多かったが、近年近づいてきている。特にメカニクスについては、ほぼ一緒になってきた。日本国内でも Bリーグが始まり、バスケットへの熱が高まってきたと同時に、メディアが映像を繰り返し使ったり、動画等がとられたりすることが多くなり、判定への責任がゲーム後にも発生する機会がある。そのために、メカニクスとガイドラインを尊重していくことでレフェリーを守ることにもつながる」とお話しいただいた。</p> <p>宇田川氏より以下の点について簡単にお話しいただいた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 メカニクスを大切にしてください</li> <li>2 ファールの3原則とガイドラインをしっかりと確認しましょう       <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実 ・責任 ・影響(RSBQをしっかりとらえる)</li> </ul> </li> <li>3 判定に説明責任を持てるようにしましょう。       <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜファールなのか</li> <li>・なぜファールでないのか をしっかりと説明できるようにプレイをとらえる</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>報告②</b></p> <p>□ 講義</p> <p>□ 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□ゲーム 女子予選リーグ 関東3位 豊野中(埼玉) 対 東海2位 弥富北中(愛知)</p> <p>主審 山本祐輔氏(兵庫B級) 副審 二宮光司(報告者)</p> <p>コート主任 加藤暁生氏(東京A級)</p> <p>■講習内容及び ミーティング内容</p> <p>お互いに 170~180cm の選手が複数いるため、インサイドでのポジションの取り方、守り方について T/L で役割や視野分担をはっきりわけて見ていくこと。ガイドラインに基づき、手の使い方の整理はシンプルに取り上げていくことを確認してゲームに臨んだ。</p> <p>ゲームは序盤から、豊野中インサイドプレイヤーに対して、オフボールの段階から弥富北中 DF がシリンダーの中に潜り込んだり、体や肩を寄せたりするケースが多く、それに対して OF が手をシリンダー外に出し始める状態も見られた。どちらにも早めに笛を入れ続けた。2Q 終盤から 3Q に入り、ゲームも落ち着き進むようになった。4Q 終盤に入り、やはり追いつきたいチームが激しく DF をするためもう一度笛を入れ整理をつけた。</p> <p>【主任より】</p> <p>ゲームの入りインサイドの守り方に異質さを感じ、笛を入れていたが、もっと笛を集めても良かったのではないかと、基準作りに前半いっぱいかかってしまったとご指摘いただいた。しかし、難しいゲームの中2人で協力し、よく持ちこたえたと評価いただいた。</p> <p>インサイドの攻防でアクション、リアクションの関係をもっとよく見極めた方が良いケースがいくつかあったので改善してほしい。インパクトの大きい現象に関し、プライマリーを超えて笛を入れるケースがあった。今回は特に問題はなかったが、カテゴリーや状況によってはそのことによるリスクも十分に理解していないとトラブルの元になるとご指摘いただいた。</p> <p>【講師より】</p> <p>ゲームが落ち着くまでに時間がかかったかもしれないが、必要な場面で必要な笛が入ってい</p>

	<p>たので選手、ベンチがそのことを理解し、2Qの後半から3Qにかけてゲームが落ち着いた。そのことは自信を持って今後も取り組んでほしいとの言葉をいただいた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>所感</b></p>	<p>沖縄県開催となった今回の全中で、沖縄県内のバスケットに関わっている方々の多さや、熱量にとっても驚きました。その沢山の方々に支えられて、沖縄全中が無事運営されているなかで安心してレフェリングできたことに感謝の気持ちでいっぱいです。</p> <p>今回で4度目となる全中の舞台で、自分が県内、ブロック内の様々な場面で研修の機会をいただき、積み上げてきたことが少し出せたように感じました。しかし、改善することも多く、メカニクスやガイドラインの理解と実際のゲームの状況をしっかりとマッチさせていくことに課題を感じました。</p> <p>国体まで1ヶ月となった中、これまで沢山のゲームや会場で培ってきたことをコート内でするだけでなく、運営などのコート外でも他県の審判員や選手にお返しできるよう取り組みたいと思います。</p> <p>今回このような機会を与えていただいた四国協会、愛媛県協会の皆様に深く感謝いたします。今後ともご指導よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。